

令和3年度第2回四万十市産業振興計画フォローアップ委員会（書面会議）の意見内容と回答・対応

項目	意見の内容	意見への回答・対応
農業分野	<p>ぶしゅかんや栗は天候に左右されるとありますが、何年もそれが連続し、生産量が思うように伸びていない状況ですので、令和4年度以降は6年度目標に向けて、これまでより取り組みを強化する、あるいは変更する必要を感じます。</p> <p>四万十市の産業振興計画を代表する商材ですので、今後の巻き返しに期待したいと思います。</p>	<p>ぶしゅかんについては、令和2年度からコロナ禍により搾汁用青果の出荷先が果汁の在庫過多となっていたことから受け込みすることができず、販路を失った生産者が収穫しなかったことなどが、生産量に影響したものです。</p> <p>平成27年度から実施している新規定植補助事業ではぶしゅかんの幼木を定植後、数年間は出荷をしないこととしており、本格的な生産量への波及はこれからになると考えられます。今後は生産者の肥培管理を周知徹底し、生産量増加に関する取組を実施していきます。なお令和4年度についてはぶしゅかんの認知度向上と販路開拓の取組を強化し、果汁や青玉の販路確保をめざし、さらなる生産意欲の向上につなげます。</p> <p>栗は、新植や水田からの転換、土壌改善等の取組を継続して実施していますが、ご意見のとおり天候不順の影響等により、生産量が増減している状況です。</p> <p>現在実施している実証事業では8種類の品種を栽培しており、令和4年度から徐々に収穫が始まる予定ですので、実証データをもとに、本市に適した品種の選定と栽培管理の徹底等により生産体制の強化につなげます。</p>
水産業分野	<p>スジアオノリやアオサノリの収量の減少や、鮎やウナギなどの資源の減少については、河口域の環境の変化が大きく影響しているため、河口域の環境改善をもっと考えるべき。</p>	<p>スジアオノリやアオサ、鮎やウナギなどの漁獲量の減少については、ご意見の河口域の環境なども含めた漁場環境の変化や過度の漁獲圧力等複合的な要因によるものと認識しています。</p> <p>資源の回復、増殖は中長期的な視点により取組を効果的に進める必要があるため、各漁協を中心に関係機関との緊密な連携により、調査・研究事業の実施、漁場整備及び試験栽培の検討、また種苗放流などの取り組みや検証などを継続的に実施し、漁場環境の改善・保全につなげていきます。</p>
水産業分野	<p>鮎は川や生活の豊かさも感じさせ、情報施策やブランド形成においても重要であろうと考えます。高知県の「あゆ王国高知振興ビジョン」や四万十町とも連携していただきながら、鮎を活用した振興を期待いたします。</p>	<p>鮎は本市の代表的な内水面資源の一つであり、漁場環境・資源量等の調査や産卵場の整備、放流事業など資源の回復、増殖にむけた取組や四万十鮎としてのブランド化の推進など様々な角度から漁協や関係機関が連携し取り組みを進めています。</p> <p>こうした動きに併せて、令和4年度から取組みが本格化される「あゆ王国高知振興ビジョン」とも連携・連動し、鮎を有効に活用した情報施策の推進やブランド形成などにより、水産振興はもとより地域・観光振興につなげていきたいと考えています。</p>

項目	意見の内容	意見への回答・対応
商工業分野	<p>住宅等耐震改修助成の予算は令和3年度に比べ増額となり、大変喜ばしい事ですが、南海トラフ地震こそ起こってないものの、先日の東北地震をはじめ、全国の至る所で大規模地震が発生している事もあり、耐震施工の確実な予算執行を要望します。</p>	<p>住宅等耐震改修助成のうち、耐震施工にかかる予算執行についてのご意見につきましては、地震防災課とも共有させていただきました。</p> <p>これまでの耐震診断及び耐震改修設計の助成実績からの耐震改修工事にかかる申請件数を見込んだうえで令和4年度の当該予算を確保していますので、適正かつ確実に対策を進めていきます。</p> <p>なお、市公式ホームページ・広報誌等による助成制度の周知をしていますが、委員所属団体の皆様におかれましても、当該制度を周知していただき災害に強いまちづくりにご協力いただけますようお願いいたします。</p>
観光業分野	<p>四万十市の特徴の一つに、以前から高知県を代表する観光地のトップランナーであることがあります。後に続かれる地域のためにもぜひ積極的な取り組みを続けていただければと思います。</p> <p>残念ながら、観光客の入り込み客数は思うように伸びてない中で、新型コロナウイルスの影響も合わさり、さらに厳しい状況下にあると思います。継続して観光関連事業者の伴走支援の必要性をご検討いただいてはどうかと思います。</p> <p>また、R6年度目標にむけても、新型コロナウイルス以前より入り込み客数の伸びが期待以下のように思いますが、入り込み客数の内訳は、どのようになっているかお教えいただけませんか？</p> <p>内訳や現状を再分析するほか、今後の入り込み客増に向けた大胆な取り組みの強化、あるいは変更などの必要性を感じます。</p>	<p>ご意見のとおり、観光入込客数は令和6年度の目標値130万人に対して、コロナ禍以前が120万人弱の推移、コロナ禍以降の令和2年度は約100万人と厳しい状況となっています。</p> <p>こうした状況を打開するため、四万十市クーポン事業や新規体験型メニューの造成等を実施し観光誘客の促進を図るとともに、安心・安全な観光地としての地位確立をめざして、観光関連施設の感染防止対策を目的とした施設改修も行っており、今後の情勢にも注視した中、伴走支援の継続についても検討していきたいと考えています。</p> <p>また、観光入込客数は、交通機関（航空機、鉄道）及び有料道路の利用者数をもとに推計したもので、内訳としては大部分が有料道路利用者と推計されます。</p> <p>その他の指標としては、市内宿泊者数や公設観光施設等利用者数もありますので、これらの施設別数値等による観光動向の分析を行い、観光誘客に資する取り組みの強化や改善を図っていきます。</p>
観光業分野	<p>観光協会のホームページは目標をすでに上回っており、素晴らしい成果につながっていると思います。</p> <p>前年度に比べ、10万以上も増加しているのですが、どのようなコンテンツや仕掛けがそのような増加につながっているのか教えていただけないでしょうか？</p> <p>また、適切なタイミングで令和6年度目標を上方修正してはいかがかと思ひます。</p>	<p>観光協会ホームページのアクセス数増加については、令和3年1月から6月まで実施した四万十クーポン事業の特設サイトを観光協会ホームページ内に設置し、インターネット広告等でPRしたことが大きな要因であると考えています。</p> <p>令和4年度についても同事業を実施しますので、今後のプロモーション戦略等とともに、目標値修正の必要性についても検討していきたいと考えています。</p>

項目	意見の内容	意見への回答・対応
観光業分野 ・ SDGs	<p>以前から取り組まれているSDGsとの対応のバージョンアップが図られて、四万十市のSDGsに関する取り組みが、よりわかりやすくなっていると感じます。</p> <p>SDGs発想とありますが、どれが対応しているかにとどまらず、今後もSDGs発想で取り組みが生まれることを期待しています。</p> <p>とりわけ、観光分野では幡多広域で取り組まれているサステイナブルツーリズムやSDGs商品の造成など、取り掛かりやすい環境もあるのではないかと思います。</p>	<p>本市は四万十川をはじめ豊かな自然を有していますので、ご意見のとおり、SDGsに取り組みやすい環境にあると考えられます。</p> <p>観光分野では、令和3年度はしまんとリバーベキュープロジェクトのモニターツアーを実施し、リバーベキューで使用する地場産品の生産地等を周遊するプラン造成をめざし、令和4年度からは新たに「郷土博物館を核とした回遊性のあるまちづくり事業」を3ヵ年計画で実施し、歴史を切り口とした周遊コースを造成する予定としており、SDGsに貢献する観光商品づくりを進めています。</p> <p>今後も、SDGs「産業振興計画編」を活用しながら継続事業の実施や新たな事業を展開し、SDGs発想の意識の醸成を図りたいと考えています。</p>
SDGs	<p>四万十市の産業振興の取組みはSDGsの考え方にマッチしており、市内企業の間でも関心が高まっている。今後も関連付けて施策を検討していくべき。</p> <p>資料5については大変見易い。「SDGsの課題を左側におく思考」と「右側におく思考」(※)があるとされる。</p> <p>17の目標を左側におき、「川とともにいきるまち」としてどのようなことが出来るかを考えていく発想が必要だと考える。</p> <p>(※右側におくとは、一覧表を作る時に左に重要課題や施策等をおき、右列に17の目標ラベルを張り付ける事。左側におくとは、17の目標をまずおいて、何が出来るかを考える、進化した思考)</p>	<p>産業振興計画では経済面への取組みが強くなっていますが、SDGsについては「経済」「社会」「環境」の三側面から持続的社会的の実現に向けて総合的に取り組む必要がありますので、本資料で左側に17の目標を記載し、右列に対応する産業振興計画の施策を記載することにより、施策の推進によるSDGsへの貢献の意識付けを図っています。</p> <p>今後、事業の実施及び新規の取り組みを展開する際に、本資料を活用することで、「川とともにいきるまち」として、三側面を十分意識(※)し、また17の目標と関連付けて実践することで、SDGsの貢献度を高めたいと考えています。</p> <p>(※三側面の意識の例)</p> <p>経済面：再生エネルギーの活用、廃棄物の削減や再利用など 社会面：経済格差やジェンダー平等など 環境面：生産や製造などによる環境負荷の低減や、四万十川や森林などの自然環境保全など</p>